

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
広島共立病院新築工事

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境			0.40					2.8
1 音環境			2.2	0.15	2.1	1.00		2.1
1.1 騒音			3.0	0.40	3.0	0.40		
	1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00		
	2 設備騒音対策		-	-	-	-		
1.2 遮音			1.0	0.40	1.8	0.40		
	1 開口部遮音性能		1.0	0.40	1.0	0.30		
	2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30		
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20		
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音			3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境			2.7	0.35	2.6	1.00		2.7
2.1 室温制御			3.3	0.50	3.0	0.50		
	1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57		
	2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		
	3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43		
	4 ゾーン別制御性	ゾーン別に冷房と暖房の選択が可能	4.0	0.38	-	-		
	5 温度・湿度制御		-	-	-	-		
	6 個別制御		-	-	-	-		
	7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		
	8 監視システム		-	-	-	-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			2.6	0.25	3.3	1.00		2.7
3.1 昼光利用			1.8	0.30	4.2	0.30		
	1 昼光率	病室の昼光率を1.25%以上としている	1.0	0.60	5.0	0.60		
	2 方位別開口		-	-	-	-		
	3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30		
	1 照明器具のグレア		-	-	-	-		
	2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
	1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00		
	2 照度均斉度		-	-	-	-		
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境			3.6	0.25	3.3	1.00		3.5
4.1 発生源対策			4.0	0.50	4.0	0.63		
	1 化学汚染物質	告示対象外、F☆☆☆☆以外は使用しない	4.0	1.00	4.0	1.00		
	2 アスベスト対策		-	-	-	-		
	3 ダニ・カビ等		-	-	-	-		
	4 レジオネラ対策		-	-	-	-		
4.2 換気			2.0	0.30	2.3	0.38		
	1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33		
	2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33		
	3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	1.0	0.33		
	4 給気計画		-	-	-	-		
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-		
	1 CO ₂ の監視		-	-	-	-		
	2 喫煙の制御	病院用途上、敷地内禁煙	5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-		3.6
1 機能性			3.4	0.40	4.6	1.00		3.5
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.60	5.0	0.60		
	1 広さ・収納性	個室10㎡/床、多床室8㎡/床を確保している	-	-	5.0	1.00		
	2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-		
	3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性			4.0	0.40	4.0	0.40		
	1 広さ感・景観	病室の天井高さを2.5mとしている	-	-	4.0	0.50		
	2 リフレッシュスペース		-	-	-	-		
	3 内装計画	癒される空間づくり。一部木目調仕上げ。間接照明	4.0	1.00	4.0	0.50		
1.3 維持管理			-	-	-	-		
	1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-		
	2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.5	0.31	-	-		3.5
2.1 耐震・免震			3.8	0.48	-	-		
	1 耐震性	必要保有水平耐力に対する建物の保有水平耐力の比: Qu/Qun > 1.25	4.0	0.80	-	-		
	2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			2.7	0.33	-	-		
	1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-		
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-		
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-		
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-		
	6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			4.4	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	熱源種の分散化及び発電機による優先運転	5.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具を採用。配管系統を区分化	4.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用発電設備、無停電電源設備を設置。受変電設備は屋上に設置	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	通信手段を多様化。地階はない	4.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.7	0.29	3.8	1.00	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	4.6	0.50	
1	階高のゆとり	全階3.9m以上	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	2階:350.65m ³ /3,465.07m ² =0.101、4階:289.25m ³ /2,616.90m ² =0.110	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕、更新が可能	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	更新、修繕時に建物機能の維持が可能。幹線はケーブルラックを使用	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=19.7	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	省水型機器(擬音、節水型便器)を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.63	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	タイル(床)、路盤材(舗装路盤)	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法、OAフロアを採用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	断熱材		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		CO2の排出量を極力抑制する	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	「広島市雨水流出抑制に関する指導要綱」に基づいている	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	公共枡への接続を分散している	4.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		3.0	0.50	-	-	
3.2	風害、日照障害の抑制		1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	